



縁起の良い蜻蛉（トンボ）

わが家に「チュオンチュオン」（ベトナム語でトンボを意味する）という竹製のトンボのやじろべえが届いた。また、わが家の庭に「オハグロトンボ」が飛来した。全身真っ黒のトンボは、「ご先祖様の魂が姿を変えたもの」と考えられ「カミサマトンボ」と呼び、「田の神の化身」だそうだ。夏が過ぎ秋になると、赤とんぼも飛来する。トンボは収穫時期に飛来することから、実りや幸福の象徴として大切にされている。そして、決して退かず（前進のみ）自在に空を飛びまわるから縁起の良い「勝ち虫」ともいわれる。



そのトンボを「幸」「赤」の漢字にとまらせると、なんとなく縁起が良くなる漢字（感じ）だ。

蜻蛉を別名「秋津」という。日本のことを「秋津島」というが、日本書紀に神武天皇が山上から国のかたちを見たとき、「とんぼが交尾しているように山々が連なり囲んでいる国だ」と言って「秋津島（あきつしま）」と名付けたという。



ゲンを担いだ漢字

穰

歌舞伎
千種楽
九月興行

芝居や相撲の興行の最終日を千「秋」楽というが、秋という字に火が入っていて、舞台が火事で焼けるを連想し縁起が悪いので、「亀は千年」の長寿の象徴であるめでたい「亀」という字の入った秋の異体字「穰」を使って「千種楽」としている。

大相撲
千種楽
場所

鐵

新日鐵住金

しんにってつすみきん

鉄鋼会社は「金」を「失う」から、縁起を担いで「鉄」の旧字体「鐵」を使っている。

旧字体の「鐵」は、「金・王・戠」という字で構成されていて「金の王なる戠」といって、大会社に相應しい。

鉄

JR
JR東日本

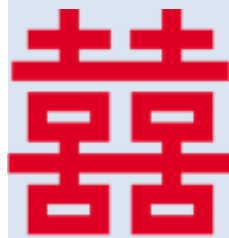
東日本旅客鉄道株式会社

JR鉄道各社は「金」を「失う」「鉄」ではなく、目的地に向かって一直線に飛ぶ、スピードを連想させる、金偏に「矢」を使っている。

また、「大井川鐵道」「わたらせ渓谷鐵道」「和歌山電鐵」「真岡鐵道」「小湊鐵道」「土佐電氣鐵道」「信楽高原鐵道」などは鉄の旧字体「鐵」を使っている。なぜかJR四国のみ「鉄」を使っている。近畿日本鐵道は「金へんに矢」を使っていたが、「金へんに失う」に変更した。その理由は、沿線の子供たちが漢字の書き取りテストで、「鉄」の字を間違ってしまったからだという。



「福」は、めでたいのにそれを逆さにしたら、逆の意味になってしまうのでは？中国では「福」を逆さまにすると、「倒福= dao fu (ダオフ-)」となり、福が来るという意味の「到 dao fu」と同じ発音で縁起が良い。



「喜」という字を横に二つ並べた漢字は、ラーメンのどんぶりや中華料理店の装飾によく使われている。双喜紋（そうきもん）といって、中国では、縁起物として結婚や春節などで用いられる。



コウモリというと暗い所に棲息する不気味な生き物というイメージだが、中国では「蝙蝠」と書き、発音が「bian fu」で、これ

が「遍福= 福が広くいきわたる」と同じ発音なので、中国では縁起が良いとされている。



「招财進寶（宝）」（どんどん儲かる）を一文字に図案化した合字である。まるで波の間を進む宝船のように描かれている。



「落」という漢字は、落第、落選、墜落と縁起が悪いイメージだが、よく見ると「落」には「サンタクロース」が隠れている。また「冬」という漢字にも、「クリスマス」というカタカナが含まれていて、メリークリスマスだ。



「喜」の草書体が「七」で、七十七に見えるから、77歳の祝を「喜寿」と呼んだり、七十七に見えてラッキーセブンということで、めでたい文字になった。

ごうじ 合字

2つ以上の文字を合成して、1つの文字としたもの=合字（ごうじ）という。



8月に入っ
て、連日雨の
日が続いた。

「あ」「め」
のひらがな
を合体させ
てみました。

夏と冬の合
体？で涼し
い。この夏
は、そんな
気候でし
た。

日本ハムの大谷選
手は、投手・打者
の二刀流でやって
いけるだろうか？



東京の合字 東と京（市松模様）を合体させて
みました。都民、いや日本国民一体化させて、
3年後の東京五輪・TOKYO2020を成功
させよう！